



地域研究集会

2025 年度九州沖縄地区合同シンポジウム（予告）
東シナ海および周辺海域における海洋環境と水産資源変動

日 時：11 月 28 日（金）（西日本海洋調査技術連絡会の翌日）10：30～17：00

場 所：沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番 琉球大学 理系複合棟 102 教室

※現地での対面開催を予定しています。

共 催：日本海洋学会沿岸海洋研究会，日本海洋学会西南支部

コンビナー：久木幸治（琉大理）・中村啓彦（鹿大水）・堤 英輔（鹿大水）

基調講演：1～2 題，30～40 分程度

一般講演：8～10 題，1 題 15～20 分程度（講演者数により変更する場合があります）

入 場 料：無料

開催趣旨：東シナ海およびその周辺海域は，水産資源と海洋学の両面において極めて重要な価値を有する海域である。東シナ海の大部分は水深 200 メートル以浅の大陸棚から構成されており，大陸から流入する豊富な栄養塩と温暖な気候条件により，多種多様な魚介類の産卵および生育に適した環境が形成されている。特に，東シナ海大陸棚の斜面域を北上する黒潮は，魚類の回遊において重要な役割を果たしており，沖縄周辺海域から太平洋岸へ至る移動経路の一部を構成している。一方で，近年の気候変動により，海水温の上昇や海洋の酸性化が進行しており，これらが当該海域の海洋生態系に与える影響が強く懸念されている。水産資源の変動を正確に予測するためには，海流や水温，栄養塩分布といった複雑な海洋過程を理解することが不可欠である。さらに，気候変動がこれらの海洋過程にどのような変化をもたらすかを予測することも求められている。

このような背景のもと，本シンポジウムでは，東シナ海およびその周辺海域を対象として，リモートセンシングによる広域観測，現場での大気・海洋観測，数値モデルを用いた解析など，多様な手法による最新の研究成果と残された課題について議論する。議論の対象には，当該海域における大気・海洋・生態系の相互作用の現状評価と将来予測，黒潮を含む海流系の時間的・空間的変動とその予測，さらに，こうした変動が水産資源に及ぼす影響などが含まれる。

本シンポジウムは，物理・化学・生物など異なる専門分野の研究者間の連携と情報交換を促進し，東シナ海およびその周辺における海洋現象の理解を深めることを目的として開催されるものである。

一般講演募集要項

◇ 締 切：2025 年 9 月 30 日（火）必着

◇ 必要事項：講演題目，共著者を含む講演者所属・氏名，E-mail アドレス

・一般講演の採否結果は，10 月 3 日（金）までに E-mail で行います（開催趣旨に合致する内容を優先します）。

◇ 申込先：〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原 1 番地

琉球大学理学部 久木幸治

電話：098-895-8515 E-mail：hisaki@cs.u-ryukyu.ac.jp

講演要旨

◇ 申し込む際に講演要旨の提出は必要ありません（シンポジウム後に収集します）。